

# 正恩寺報

平成 19 年 11 月

ホウオンコさん

今年も報恩講さまを門信徒の皆さまと共におつとめさせていただきました。晩秋となりました。ご本山では、一月のお正月早々につとまり、全国の末寺では年内につとめなければならぬ最も代表的な法要です。

親鸞聖人さまの九十年にわたるご苦勞の数々をお偲びし、ご教化たまわったことに感謝申し上げる私たち門信徒が一番大切につとめ上げなければならぬ法要なのです。俗に「ホウオンコさん」と親しく呼んでおります。

現在を生きている老いも、若きも、仏法を聞かせていただくことは、ご先祖のための命日や法事だけのためであったり、死への準備のためだけではないと私は考えております。

仏法を聞かせていただくことは、今を、今日一日を確かに生きる大きな力の源なのではないでしょうか。思わぬ悲しい出来事にぶつかっても必ずありますが、その時に依り所となり灯となつてくださるのが仏法であります。また、楽しい時には、共に喜んでくださる灯となつてくださるのが仏法といただきます。常に仏法を聞かせていただき日々の中で確かに私の帰依所（依り所）のちの帰る場所（を）をいただいていることは何としても有り難い限りでございます。どうかどうか最大行事の報恩講さまのご法縁にお遇いくださいませよとお待ちしております。この法要は、門信徒の皆様一人ひとりがつとめられる法要なのです。幸い本願寺の講師 和治教文師がご法話下さる縁に恵まれます。ぜひ一人でも多くの方々にご聴聞の席についでください。

## 祈らない宗教

加茂仰順和上は「信心とは、どついつとことか」と題して次のようにお示し下さっています。本願の宗教は、単なる自覚ではありません。また、努力を教えるものでもありません。

ただ信受を教え給うのです。（信受 信じて受ける）

他の宗教は、「目覚めよ、つとめよ」ですが、浄土真宗は「受けよ」であります。この身のまま受けるのです。力も知恵もいりません。ただそのままお呼び声を素直に受けさせていただくばかりなのです。心に受けさせていた姿が信心で、身に受けさせていた姿がお念仏であります。と、よくよくかみしめて味わっていただきますと、とつとも有り難いお言葉で浄土真宗の要を的確におさえていくことができます。

世界で唯一「祈らない宗教」が私達の浄土真宗なのです。神や仏に何かをねだったり求めたりするのではなく、私の生活の原動力となる。いえは、お念仏に生かされるみ教えなのです。報恩講のころとなりました。「仏法は、世間の時を力きて聞くべし」と示して下さっております。

力きて聞くべし 世事に流れる時の中でわざわざ時間を作って聞くほど大切なことなのである。

どうぞ聞法におはげみいただきますようご案内申し上げます。

## 報恩講法要

十一月二十五日

（日曜日）

二時

「正信偈」唱和

三時

「ご法話

本願寺

和治教文 師

ご家族お揃いでお参りください。  
一人ひとりが勤めてくださる報恩講法要です。

正恩会

正恩寺

例年通り報恩講法要の準備、掃除を十一月二十二日（木）朝九時からさせていただきます。お時間のある方、ご協力お願い致します。